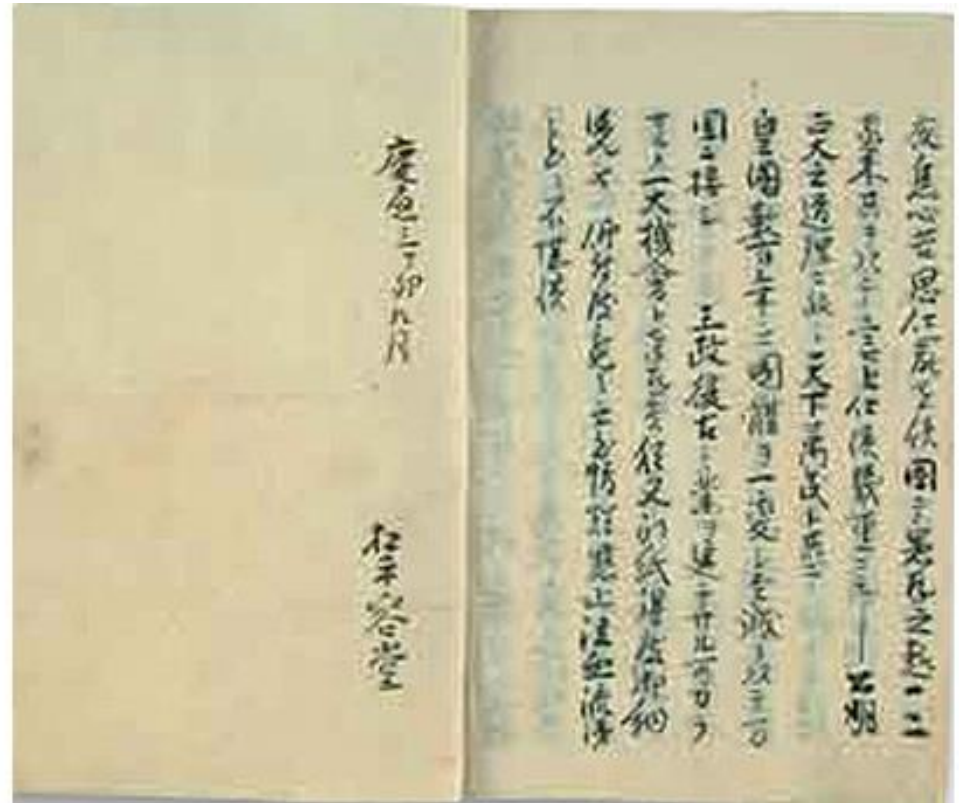


大政奉還 1

1867年10月3日、土佐藩の前藩主山内豊信（やまうちとよしげ）（容堂）は、15代将軍徳川慶喜（とくがわよしのぶ）に、幕府が朝廷に政権を返上する大政奉還（たいせいほうかん）を進言した。



「土佐藩大政奉還建白書写」(三条家文書12-8)
慶応3(1867)

大政奉還 2

1867年10月、薩摩藩・長州藩の間で、徳川慶喜(とくがわよしのぶ)を追討し、幕府を倒すために、「討幕の密勅」(とうばくのみつちよく)が下された。



文部省維新史料編纂事務局編『維新史料聚芳 乾』巧芸社
昭和11(1936)【301-142イ】

大政奉還 3

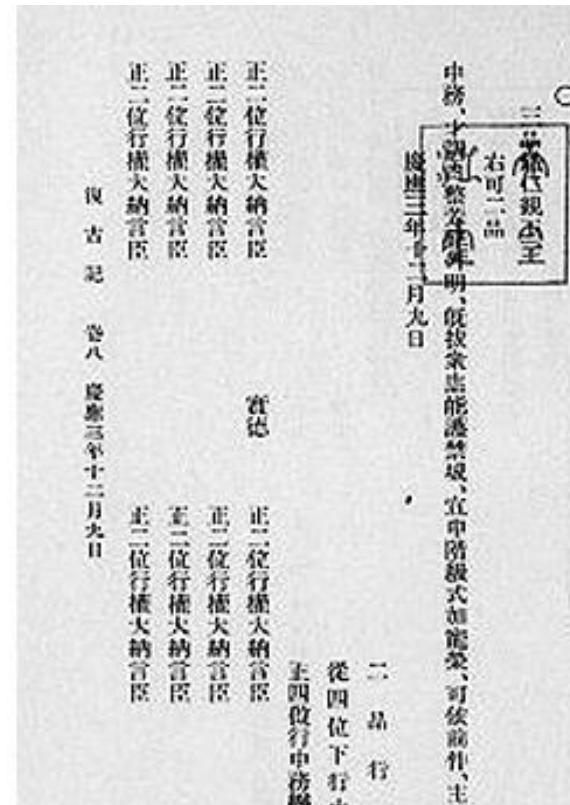
徳川慶喜(とくがわよしのぶ)は、倒幕の勢いを抑えることができず、1867年10月14日、京都の二条城で大政奉還を表明した。これにより、1603年から続いた江戸幕府は幕を閉じることとなった。

七〇九 慶應三年十月十四日政權奉還
臣慶喜、謹テ皇國時運之沿革ヲ考候ニ、昔シ王綱之亂、政權武門ニ移テヨリ、祖宗ニ至リ更ニ寵眷其職ヲ奉スト雖モ、政刑當ヲ失フコト不少、今日之致、不堪慙懼候。況ヤ當今外國之交際日ニ盛ナル候、之ヲ綱紀難立候間、從來之舊習ヲ改メ、政權ヲ盡シ、聖斷ヲ仰キ、同心協力、共ニ皇國ヲ保護仕立候。臣慶喜、國家ニ所盡、是ニ不遇ト奉存候。乍去申聞旨、諸侯へ相達置候。依之此段、謹テ奏聞仕候。未だ其故を詳にせず。

渋沢栄一『徳川慶喜公伝 卷7』竜門社
大正7(1918)【354-66】

大政奉還 4

薩摩藩(西郷隆盛(さいごうたかもり)、大久保利通(おおくぼとしみち)ら)と長州藩(木戸孝允(きどたかよし)ら)と公家の岩倉具視(いわくらともみ)らにより、1867年12月9日に、天皇による政治に戻る「王政復古の大号令」(おうせいふっこのだいごうれい)が出された。



太政官編『復古記』第一冊 内外書籍
昭和4-6 (1929-1931) 【14.9-11】

大政奉還 5

1867年12月9日、明治天皇(めいじてんのう)の前で行われた会議(小御所会議)では、王政復古を受け、徳川慶喜(とくがわよしのぶ)が官職を辞め、領地を返上する「辞官・納地」(じかん・のうち)が決定した。

一、爰に再び小御所議事之次第を詳説せん、如前説、上下已に班列に着くの後、中山殿より先一點無私之公平を以、王政之御基本被爲、建度叡旨之趣御發言に而、夫より徳川氏之弊政、殆違勅ともいふへき條々不_レ少、今内府政權を還し奉るといへとも、其出る處之正邪を辨し難ければ、實蹟を以之を責讓すへしなと、縉紳諸卿論議あるに、土老侯大聲を發して、此度之變革一舉、陰險之所爲多きのみならず、王政復古の初に當つて兇器を弄する、甚不祥にして亂階を

中根雪江「丁卯日記」(『史籍雜纂 第四』(国書刊行会刊行書) 国書刊行会
明治44—大正元(1911-1912)【081-Si571-K】)

大政奉還 6

世直しを唱える民衆の中で、1867年、天から降るお札を求め「ええじゃないか」とはやし立てて踊り歩く騒ぎが起こった。民衆も新しい社会を求めた。



『[絵曆貼込帳]』寛政4-明治3 (1792- 1870)【寄別13-64】